　平成２９年度　大分県スポーツ振興基金運用委員会　議事録

* 日　時 平成２９年４月２５日（火）　　１０：００～１１：３０
* 場　所 大分センチュリーホテル「桜の間」

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| * 出席者 | 副委員長 | 工　藤　利　明 | 大分県体育協会副会長（大分県教育委員会教育長） |
|  | 委　　員 | 羽田野　明　美 | 一般財団法人大分陸上競技協会強化部長 |
|  |  | 田　中　功　一 | 大分県弓道連盟理事長 |
|  |  | 蓑　田　智　通 | 大分県高等学校体育連盟会長 |
|  |  | 小　原　美　穂 | 大分県経済同友会人財力向上委員会運営委員 |
|  |  | 今　冨　寛　二 | 中津市体育協会事務局長 |
|  |  | 高　尾　悦　子 | ＮＰＯ法人賀来衆倶楽部クラブマネジャー |
|  |  | 吉　冨　康　秋 | 大分県アーチェリー協会副会長兼理事長 |
|  |  | 安　部　フジ子 | 大分商工会議所　女性会理事 |
|  |  | 谷　口　勇　一 | 大分大学教育学部教授 |
|  | 監　　事 | 森　竹　嗣　夫 | 大分県商工会議所連合会専務理事 |
|  | 監　　事 | 後　藤　栄　二 | 大分県中学校体育連盟理事長 |
|  | 事 務 局 | 井　上　倫　明  加　藤　寛　章 | 事務局長（大分県教育庁体育保健課長）  事務局次長(大分県教育庁体育保健課体育・スポーツ振興監) |

他、事務局員７名

〈資料確認〉

　進行（加藤事務局次長）が配付資料を確認。

1. 平成２９年度大分県スポーツ振興基金運用委員会レジュメ（黄色の表紙）
2. 大分県スポーツ振興基金運用委員会の資料１　（緑色の表紙）
3. 大分県スポーツ振興基金運用委員会の資料２　（桃色の表紙）
4. 大分県のスポーツ現状と課題について説明資料（水色の表紙）
5. 貯筋運動についてのパンフレット

〈資格確認〉

　進行（加藤事務局次長）から、出席者が１０名、欠席者２名であることから、大分県スポーツ振興基金運用委員会規約第８条の２により、過半数を超えており、本委員会が成立することが確認される。

１　開　会

　　加藤事務局次長が開会を宣言。

２　あいさつ

　　工藤利明副委員長があいさつ

　（要旨）

|  |
| --- |
| ・本来であれば、委員長の広瀬知事が挨拶するところではあるが、公務のため出席がかなわなかったため代わりに挨拶をさせていただく。  ・本委員会への出席と本県のスポーツ振興に対する支援と協力に対してのお礼。  ・２０１９年春に完成予定である県立屋内スポーツ施設の起工式が行われたこと、この施設がスポーツ振興の拠点として県民が誇りを持てる施設となるよう着実に建設を進めていく考えである。  ・昨年度は、本県を代表するトップアスリートが国際舞台で大いに活躍した。個人では競泳の渡辺選手や空手の大野選手、カヌー競技では中学生で初めて世界一になった米光選手など輝かしい記録を残した。その他ボートやフェンシングでも国際的な活躍が目立った。  ・国民体育大会では、残念ながら、目標である１０位台に届かず、３８位という悔しい結果であった。積極的に競技力向上対策を推進してきた本県にとっては「チーム大分の復活」は喫緊の課題である。今年の愛媛国体での目標は「２０位台上位」、スローガンは「復活～ネバーギブアップ」であることを確認し、「チーム大分」の復活に向けての協力のお願いをする。  ・結びに、本運用委員会では、効果的な基金の運用に努め、基金事業の目的を達成したいと考えている。委員の皆様に引き続きご支援とご協力をお願いする。  本日の会議では忌憚のない意見を出すようにお願いする。 |

　〈議長選任〉

　　大分県スポーツ振興基金運用委員会規約第８条及び第６条の２項により工藤副委員長が議長に選任される。

　　〈議事録署名人の選任〉

　　議長提案により蓑田委員と谷口委員を選任する。

３　報告事項（１）委員・役員の変更について

〈井上事務局長〉

報告事項(１)委員・役員の変更について説明。（黄色い表紙のレジュメ１２ページ）

それでは、報告事項(1)平成２９・３０年度委員・役員の変更について説明申し上げる。

大分県スポーツ振興基金運用委員会規約の第６条３項を御覧いただきたい。委員の任期は

２年となっており、本年度は、委員・役員の改選の年にあたる。また、第４条に「委員会は、

右側の別表に掲げる１３名以内の者をもって組織する。」となっているので、併せて御確認

いただきたい。また、第５条２項に、「委員長は、大分県体育協会の会長の職にあるものを

もって充てる。」とあり、第５条３項に、「副委員長は、委員長が委員のうちから指名する。」

となっている。

（レジュメ２ページ）

まず、委員は、すでに皆様方には４月１日付けで委員就任について御依頼申し上げ、御承諾を

いただいているので、委員名簿のとおりとさせていただく。任期は、平成２９年度、３０年度

の２年間となっているのでよろしくお願いしたい。なお、今回新たに委嘱させていただいた委

員の方には、名簿の右に星印を付けている。

次に、役員については、委員長は、大分県体育協会会長の 広瀬 勝貞大分県知事である。また、

委員長は、大分県体育協会副会長の 工藤 利明大分県教育委員会教育長が指名されたので、御報

告申し上げる。

なお、委嘱状は机上にあるので、御確認いただきたい。

報告事項（１）平成２９・３０年度委員・役員の変更につきましては、以上である。

（新委員自己紹介）

新委員の今富・小原・安部委員が一言ずつ挨拶をする。

４　議事　第１号議案　監事の選任について

〈議長〉

　第1号議案監事の選任について、説明を事務局に求める。

〈井上事務局長〉

それでは、第1号議案、監事の選任について説明申し上げる。

（レジュメの１２ページ）

運用委員会規約の中ほど、第７条２項により、「監事は、委員会において選任する。」とある。

先ほどの委員・役員の変更と同様に、監事も本年度が改選期にあたるので、選任について、

御審議の程、よろしくお願いしたい。

〈議長〉

　第1号議案監事の選任について、事務局案を提案するように事務局に求める。

（監事名簿案(別紙)を配付する）

〈井上事務局長〉

それでは監事について事務局案を提案させていただく。

森竹 嗣夫大分県商工会議所連合会専務理事と、後藤 栄二大分県中学校体育連盟理事長のお二方

を監事として御提案申し上げる。御審議のほど、

よろしくお願いしたい。

〈議長〉

　事務局提案について、委員に承認を求める。

委員の承認により２名の監事が承認される。

（新監事自己紹介）

新監事の森竹・後藤監事が一言ずつ挨拶をする。

５　議事　第２号議案　平成２８年度　事業報告（案）について

　　　　　第３号議案　平成２８年度　収支決算（案）について

〈議長〉

　第２号議案と第３号議案は関連があるので、一括説明を事務局に求める。

〈井上事務局長〉

それでは、はじめに第２号議案「平成２８年度事業報告（案）」について、説明申し上げる。

（レジュメ４ページ）

まず、項目の１、「選手の強化に関すること」の（１）「指導者育成事業」については、昨年１２月１０日に県競技力向上対策本部、県体育協会との共催で、国体の県選抜チームの指導者等９５名を対象に、指導者としての資質向上を目的に、「スポーツコーチサミット」を開催した。

研修では、福島大学教授の白石 豊先生に、「本番に強くなるメンタルトレーニング」と題して御講義いただいた。白石先生は平成２０年の大分国体に向けて、チーム大分のメンタルサポートを継続して御指導いただき、大分国体での天皇杯、皇后杯獲得に大きく貢献していただいた。この４月からは岐阜県の朝日大学で、教鞭をとられているが、先日開催された県体育協会の強化指定委嘱状交付式後の指導者研修会においても御講義をいただき、現在では、大分県の競技力向上になくてはならない存在となっている。

（２）の「国際大会参加者支援事業」については、アーチェリー競技の 佐藤 真奈美選手をはじめ、延べ３７名に激励金を交付し、国際大会に日本代表として出場する本県の選手を支援した。

（３）「トップコーチ派遣事業」については、カヌー競技で本県においてジュニア初の国際大会優勝者を輩出した 後藤 和喜氏 、ソフトボール競技、大分東高校の 杉田 剛先生、卓球競技、明豊中学・高校の 松本 香織先生、なぎなた競技、福徳学院高校の 築城 理恵先生の計４名を国内外へ派遣した。

次に、項目２の「競技団体等の振興に関すること」の（１）「競技団体振興事業」については、競技団体を規模等によりランク分けをして、Ａ区分１３団体・Ｂ区分８団体・Ｃ区分２０団体に組織強化や競技力向上を図るための振興活動費を補助した。また、特殊競技等には、施設使用料や大会開催費を補助するなど、各競技団体が実施する各団体の活性化及び競技力向上のための事業を支援した。

（２）の「学校体育団体振興事業」については、大分県高等学校体育連盟では、陸上競技など１２専門部、大分県中学校体育連盟では、ソフトボール競技など４競技、そして大分県高等学校野球連盟に対して、それぞれが行った指導者研修会等について補助した。

次に、項目３の「スポーツの振興啓発に関すること」の（１）「特色あるスポーツづくり推進事業」については、昨年５月１６日に一企業一スポーツ推進協議会を開催し、新役員及び推進企業について御審議いただいた。また、会終了後、ＪＯＣと県競技力向上対策本部との連携により開催した「第２回大分アスナビ説明会」には、関係企業１４社　１８名に御参加いただいた。

（２）の「大分県内のスポーツ振興に関する研究助成事業」については、昨年度は残念ながら応募者がなかった。

次に項目の４、「地域スポーツ団体の振興に関すること」の（１）「地域スポーツ団体振興事業」については、県内の１７の郡市体育協会に対して、それぞれ地域でのスポーツ振興に対して補助した。

また、総合型地域スポーツクラブの育成については、昨年度３月末に１クラブが創設されたが、年度末であったため、平成２９年度の対象クラブとしたことから、昨年度は、大分県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会に対する支援のみであった。

項目の５、「推進体制の整備に関すること」の（１）事務局運営費は、主に、昨年度の本委員会の開催や臨時職員１名の雇用に係るものである。

以上であるが、別にお配りした緑色表紙の資料１に、ただいま説明した事業実績を記載している。詳細な説明は省略させていただくので、後刻御覧いただきたい。

続いて、第３号議案「平成２８年度収支決算（案）」について、説明申し上げる。

（レジュメの５ペ－ジ）

まず、「収入の部」については、県費負担金が、当初予算額１８，７５１，０００円に対して、決算額は１５，４２４，８５７円であった。雑収入は、預金利息１１７円が決算額となり、収入の部全体としては、当初予算額１８，７５１，０００円に対して、決算額は、１５，４２４，９７４円、差額は３，３２６，０２６円であった。

続いて、「支出の部」を御覧いただきたい。

まず項目の１、「選手の強化に関すること」については、当初予算３，９４４，０００円に対して、決算額は２，８２５，７３０円、差額は１，１１８，２７０円であった。主な理由としては、（１）の指導者育成事業での役務費などを事務局運営費で対応したことと、県庁舎使用による会場費の節減である。（２）の国際大会参加者支援事業では、国際大会への出場者数を５０名で予算化していたことによるものである。（３）のトップコーチ派遣事業では、旅費が安価になったことによるものである。

次に、項目２の「競技団体等の振興に関すること」については、当初予算額の８，３９０，０００円に対して、決算額は、８，３５０，０００円であった。これは、アイスホッケー競技の事業中止と、トライアスロン競技に対する追加支援によるものである。

次に、項目３の「スポ－ツの振興啓発に関すること」については、当初予算２，１２６，５００円に対して、決算額は９１，７６５円となり、差額は２，０３４，７３５円であった。（１）の一企業一スポーツ推進協議会の開催では、アスナビを活用してアスリートを雇用した企業に対する雇用助成費の支出が本年度はなかったことによるものである。（２）の大分県のスポーツ推進に関する研究助成事業においては、先ほど説明したとおり、応募者がなかったことによるものである。なお、研究助成の案内文送付に係る役務費は事務局運営費で対応した。

次に、項目４の「地域スポ－ツ団体の振興に関すること」については、当初予算２，１４０，０００円に対して、決算額は２，１３８，２４０円となり、差額は１，７６０円であった。差額については、スポーツ振興活動費において、東国東郡からの返金によるものである。

最後に、項目５の「推進体制の整備に関すること」については、当初予算額２，１５０，５００円に対して、決算額は２，０１９，２３９円で、差額は１３１，２６１円であった。主な理由は、印刷消耗費などの経費の節減によるものである。

「支出の部」全体としては、当初予算額１８，７５１，０００円に対して、決算額は１，５４２，９７４円、差額は３，３２６，０２６円であった。

なお、６ページに決算の内訳について記載しているので、併せて御確認願いたい。また、差額は県へ返納し、再度、基金へ積み戻している。

以上で、第２号議案「平成２８年度事業報告（案）」と第３号議案「平成２８年度収支決算（案）」の説明を終わらせていただく。審議をお願いする。

〈議長〉

監査報告を監査委員に求める。

（加藤監事による会計監査報告）レジュメ７ページに記載。

〈議長〉

第１号議案と第２号議案について、各委員に意見・質問を求める。

（委員からの質問はなし）

〈第２号議案、第３号議案は承認される。〉

６　議事　第４号議案　平成２９年度　事業計画（案）について

　　　　　第５号議案　平成２９年度　収支予算（案）について

〈議長〉

　第４号議案　平成２９年度　事業計画（案）と第５号議案平成２９年度　収支予算（案）は

関連があるので、一括説明を事務局に求める。

〈井上事務局長〉

それでは、第４号議案「平成２９年度事業計画（案）」から説明申し上げる。

（レジュメ８ページ）

また、ピンクの表紙の資料２に各事業の実施要項（案）を掲載しているで、順を追いながら、併せて御覧いただきたい。

項目の１「選手の強化に関すること」の（１）指導者育成事業では、本年度もスポーツコーチサミットを開催し、指導者の資質の向上を図りたい。（２）の国際大会参加者支援事業については、本年度も対象を中学生以上とし、諸事情により来庁できない県外在住の選手に対しても激励金を交付したいと考えている。

なお、昨年度まで実施していたトップコーチ派遣事業は、これまで２８競技６０名にわたり、数多くの県内の優秀な指導者を国内外に派遣することで指導力の向上を図ってきたが、海外派遣の場合、およそ１週間から１０日と、長期に渡り所属を離れなければならないことから、却って指導者の負担が増え、候補者の派遣辞退が出ている状況である。

　そのような中、本県の指導者育成については、現在、県体育協会の拠点指導者研修会や、基金事業のスポーツコーチサミットなどに取り組んでおり、トップコーチ派遣事業の事業効果については、他事業で補えるという考えのもと、基金の効果的な運用という観点も考慮した上で、派遣事業を休止させていただくこととした。

項目２の「競技団体等の振興に関すること」の（１）競技団体振興事業につきましては、例年通り、競技団体の区分別に補助金を交付することに加え、特殊競技等への補助を予定している。

また、学校体育団体振興事業にいても同様に、県高等学校体育連盟、県中学校体育連盟、県高等学校野球連盟に対して振興活動費を補助する。

項目３の「スポーツの振興啓発に関すること」の（１）特色あるスポーツづくり推進事業は、一企業一スポーツ推進協議会を県競技力向上対策本部が実施している「トップアスリート就職支援事業」と連携・協力し、開催する。

なお、平成２５年度から実施していた研究助成事業については、毎年、全国の体育系大学や研究機関へ応募者を募ってきましたが、近年は応募者の減少と応募者の研究内容が助成の対象にそぐわず、該当者なしという状況も発生している。また、本事業では２年間の研究費用を１５，０００円としているが、研究費としては十分な額ではないと聞いている。より効果的な事業とするために予算を引き上げたいところだが、トップコーチ派遣事業同様に、基金の効果的運用の観点も考慮し、休止とさせていただきたい。

項目の４、「地域スポーツ団体の振興に関すること」の（１）地域スポーツ団体振興事業では、１７郡市体育協会への振興活動費の補助をはじめ、総合型地域スポーツクラブに対する支援として、設立後１・２年目の総合型地域スポーツクラブを支援することとしている。

項目の５、「推進体制の整備に関すること」については、本協議会の開催及び臨時職員１名の雇用としている。

続いて、「第５号議案　平成２９年度収支予算（案）」について、御説明申し上げる。

（レジュメの９ペ－ジ）

先ず、「収入の部」については、当初予算額は、県費負担金として、前年度比１，７３６，０００円減額の１７，０１５，０００円である。

次に、「支出の部」を御覧いただきたい。

先ず、項目１の「選手の強化に関すること」については、当初予算額は、前年比１，２００，０００円減額の２，７４４，０００円である。主な理由としては、先ほど説明申し上げた(３)の「トップコーチ派遣事業」の事業休止によるものである。

　次に、項目２の「競技団体等の振興に関すること」については、当初予算額は、前年比４０，０００円増額の８，４３０，０００円である。増額した４０，０００円については、トライアスロン競技の普及・振興に向けた特殊競技等の補助である。その他の項目については、前年と同額としている。

　次に、項目３の「スポ－ツの振興啓発に関すること」については、当初予算額は、前年比５９６，０００円減額の１，５３０，５００円である。主な理由としては、大分県のスポーツ推進に関する研究助成事業の休止によるものである。

　次に、項目４の「地域スポ－ツ団体の振興に関すること」については、当初予算額は、前年と同額の２，１４０，０００円としている。

　次に、項目５の「推進体制の整備に関すること」については、当初予算額は、前年度比２０，０００円増額の２，１７０，５００円である。主な理由は、臨時職員の賃金増額によるものである。

　「支出の部」全体としては、当初予算額は前年度比１，７３６，０００円減額の１７，０１５，０００円である。

　以上が平成２９年度の事業計画（案）と収支予算（案）の説明である。なお、事業計画及び収支予算を御承認いただいた上は、事業効果を高めるため、事業開始日を４月１日として予算執行させていただきたいことも併せて提案し、説明を終わらせていただく。

　審議のほどお願いする。

〈議長〉

　平成２９年度の事業計画（案）と収支予算（案）、併せて各事業実施要項（案）について、各員に意見・質問を求める。

（委員からの質問なし）

〈第４号議案、第５号議案について承認される。〉

７　説明　大分県のスポーツの現状と課題について

〈議長〉

　大分県のスポーツ現状について、事務局に説明を求める。

（説明）

〈体育保健課　学校体育班　後藤指導主事〉

　大分っ子の体力の現状について資料３の１ページ、２ページを説明。

　・平成２９年度　体力アップおおいた推進事業について

　・運動を通しての健康・体力の増進、生きる力の育成について

　・大分っ子の体力の課題について

〈体育保健課　生涯スポーツ班　竹本指導主事兼主幹〉

生涯スポーツについて資料３の３ページから５ページ、貯筋運動パンフレットを利用して説明。

・大分県のスポーツ実施率について

・総合型地域スポーツクラブについて

・貯筋運動の取り組みについて

〈体育保健課　競技力向上対策班　於久指導主事兼主幹〉

愛媛国体に向けた競技力について資料３の６ページから８ページを説明。

・チーム大分の国体順位の推移について

・チーム大分の現状と今後の強化について

・大分県競技力向上対策関係図について

（議長）

　説明に対して、委員に質問を求める。

〈谷口委員〉

　質問

・今年度の県内における小学校体育専科教員の配置数について

・今後の体育専科教員の配置数の増減について

　意見

・競技力向上について新潟の取り組みから中学校の部活動の重要さについて

〈議長〉

　谷口委員の質問・意見に対しての回答を事務局に求める。

〈井上事務局長〉

・体育専科教員の配置は県内で今年度は２４名である。

・今後、体育専科教員の増員は考えていない。

・体育専科教員の有効な活用としてタブレットなどＩＣＴ機器を活用して、他の教員との共通理解をはかり、授業改善などに努める。

・中学校の部活動については、特に指導者の資質向上に努めていきたい。部活動指導員など新たな取り組みも各県地方公共団体でモデル事業として始まっている。任用の方法や事故発生時の対応など越えないといけない課題が多いが先進県からも学び、より良い部活動が行えるようにしたい。

〈議長〉

　学校体育団体として高体連蓑田委員に質問・意見を求める。

〈蓑田委員〉

・振興基金から援助に感謝している。

・高体連としても指導者の資質向上に取り組んでいきたい。

〈議長〉

　総合型地域スポーツクラブの観点から高尾委員に質問・意見を求める。

〈高尾委員〉

・立ち上げにも多くの力を使うが自立運営はそれ以上に大変である

・自立運営ではやはり資金面で苦労をする。事務局の熱意で運営が成り立っている状況である。

・できれば連絡協議会に補助金をいただきたいが、補助金をいただけるだけでもありがたい。

・貯筋運動など多くの活動を自治体と協力して行っている。

・今後も支援をお願いしたい。

〈議長〉

　貴重な意見をありがとうございました。今回の意見を今後の基金の効果的な運用に活かしていきたい。

これで、議長の任を解かせていただく。

６．閉会

加事務局次長が閉会を宣言